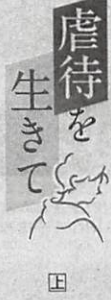


「出会い系」でつづないだ命



虐待を 生きて 田

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。



リビングで勉強に励むはとさん—東京都清瀬市の自立援助ホーム「あすなろ荘」で10月26日

が多かった

自然と外を歩けなくなり、何度も近所の公園の滑り台で夜を過ごした。腹を満たそうと万引きしたこともある。はりのゲームカードを盗んで友達に渡し、わずかなお金をもらった。買ったのはポリウムがあるメロンパン1個。「一気に食べることもなくなるので、半分を1日過ごしました。あとは公園の水を死ぬほど飲む感でした。家出をどうがめられたはとさんが言い繕うと、義母はキッパンに駆け出し、包丁を持ち出した。右腕を切られたが、必死に外へ逃げた。数秒の切り傷の痕は今も残り、ふけてなかった腕がなくなる勢いだっただけでなかった。病院には行かせてもらえなかった。

小学4年の時、「面倒を見切れない」と追い出される形で、妹とともに実母の家庭で暮らし始めた。虐待が激しかった義母から離れ、安心したものの、平穩は訪れなかった。待っていたのは、生後まもない双子の弟の世話だ。

再婚した実母は双子を育てていた。だが、一緒に生活を始めるともなく実母と義父がそろってパチンコにはまり、終日家を空けるようになった。弟2人が1歳になった頃なので、家に誰がいなければいけない。すぐく戸惑いました。誰か助けてくれる人がおらず、全部自分でしようと思いましたが、双子を風呂に入れ、オムツを替え、ミルクを飲ませてはグッとお世話。妹に留守番を頼み、抱っこひもをおなかと背中に着いて双子を前後に抱き、徒歩15分のスーパーへ通った。「弟を寝かしつけていて気付いたらソファや廊下で自分も寝ていた時もありました。心身共に毎日の生活でした。」

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

生活は3年間ほど続いた。

警察も関わり、はとさんが児童養護施設に入るという話が出た記憶がある。それを避けようと、親はギャンブルの頻度を減らすと誓ったという。中学に進むと、実母は約束通り家には解放された。双子の世話からは解放された。しかし、ここで義父の虐待が始まった。「なぜ殴られるのか、意味はわからなかった。夜、仕事から帰ると、卓球の部活で疲れ疲れているはとさんの部屋の電気をつけ顔をたたいた。

暴力に耐えきれず、再び家出を始める。親が警察に行方不明者届を出した。中学3年の時だ。これをきっかけに、半年間、児童相談所(児相)の一時保護所に保護された。その後、千葉県内の自立援助ホームへ移ったが、1年遅れで入学した定時制の県立高校はアルバイトに夢中になり、中退。けんか騒ぎを起して、ホームの退所を余儀なくされた。

お金も行き場もないはとさんが頼ったのが実父だ。父が営む建設会社に入社して働き、現場での仕事にやりがいを感じた。一方、かつて虐待を繰り返した義母が暮らしの父の自宅に戻らざるをえなかった。はとさんへの暴力こそなかったものの、嫌がらせは続いた。洗濯物ははとさんの分だけ洗ってもらえず、洗濯機の脇にぶつけてもらえず、毎日早朝から夜遅くまで働く中、眠い目をこすって洗濯機を回すと「うるさい」と怒られた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「何も考えず、とりあえず今日を生きてしまおうと思ってました。

でもあすなろ荘に来て、初めて未来が見えた。そう話す表情は明るい。ネガティブに考えたら嫌なことしか思い出せなくなるけど、過去がなかったら今の生活もよい。自分が育った家庭があまりよくなかったため、自分が理想とする家庭を作りたい」と思っている。

はとさんは中学3年の時に児相に保護されたが、小学生の頃から虐待を受けてきた。なぜ、もっと早く児相など公的機関の支援につながらなかったのか。東京都文京区子ども家庭支援センター元所長で、児童福祉行政に詳しい日本大の鈴木秀洋教授は「学校に虐待の知見が乏しくても外部に頼らない傾向は強い」と、公的機関の子どもに関わる部署との連携が不足した可能性を指摘した。

はとさんは高学年の時には体の前後に双子を抱いて外出した際、通行人から「お母さんは」と声をかけられたことがある。鈴木さんは「法律上全国民に課されている児相への通告義務は、子どもの命を守り保護者を支えるサービスを家庭に届けるための制度です」と解説した。また、相談や通告を受けると行政側に対しては「すべて一つの機関で解決することは難しい。だからこそ、子どもを真ん中にして、足りない支えを多機関で組み合わせてつなぐ力と、伴走し続ける子どもに伝えることが求められる」と話す。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。



「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。

「ママ活」というのがありまして、それどころか生活ももういいやと思う。長年、保護者から虐待を受けた末、10代後半で家も仕事も無い、出会い系サイトに頼って命をつないだはとさん(仮名、21歳)。虐待から離れた若者が暮らす自立援助ホーム「あすなろ荘(東京都清瀬市)」にたどり着くまでの日々を尋ねると、凄絶な過去を淡々と語り始めた。